



港区立中之町幼稚園 11月園だより

教育目標



- ・げんきな子
- ・かんがえる子
- ・なかよくする子
- ・がんばる子



令和 3年 10月 29日
 港区立中之町幼稚園
 園長 大橋 美都子
<http://nakanocho-kgminato-ty.ed.jp/>

けんかはチャンス

園長 大橋 美都子

ずいぶん秋の深まりを感じるようになりました。先日は、運動会「はしろう おどろう げんきっず!」をご参観いただきありがとうございます。どの学年も延期日での開催となったものの、温かい拍手でのご声援や励ましをたくさんいただき、子どもたちは少し照れながらもものびのびと、そして誇らしげに演技や競技をしていました。子どもたちの成長の様子を感じていただけたことをうれしく思います。

さて、保護者の皆様は小さい時に友達やきょうだいとけんかをよくしましたか？実は、最近ではけんかができない子どもが増えているという調査結果もあります。わが子や相手に嫌な思いをさせたくないという親心ゆえに「けんかはしてはいけない」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、実は「ピンチはチャンス」ならぬ、子どもの成長にとって「けんかはチャンス」なのです。将来の予測不能な社会を生きていく子どもたちにとっては、幼児期のうちに人とぶつかり合い、調整したり、折り合いをつけたりする力が必要なのです。けんかでは次のような育ちが見られると言われています。①自己主張をすることで自分が何をどう感じたのかを自己認識する力や、言葉で自分の考えや感情を訴える力が養われます。②相手の行動の意図や要求に気付く機会になり、自分の思いとの違いを知り、どうすればよいか問題解決の力も養われます。③我慢する力(自己統制力)が身に付き、相手の痛みが分かり思いやる気持ちも生まれます。④人とぶつかり合い、感情を吐露することで気持ちがすっきりします。

もちろん、発達によりけんかの質も変化していきます。3歳児ではまずは遊具の取り合いから始まり、徐々に自分の思い通りにならないことを経験していきます。友達との関わりが出てくると、相手と自分とのやりたいことや思いの違いに気付いたり、時には辛辣な言葉を言い合ったり、仲間外れのようなことをするときもあります。5歳児くらいになると、遊びをより面白くするための工夫を主張し合うような高度なけんかをするようになります。子どもの心には弾力性があり、納得できれば相手を受け入れます。けんかをしてそのあとすぐに仲良くなっているのも子どもの世界です。担任はけんかの実態を見守りながら(もちろん相手を傷つけることは止めさせます)、タイミングや状況をとらえ、その時に必要な援助をしていきます。

今、運動会終了後、他学年にダンスを教え合い一緒に踊ったり、学年混合でリレーを始めたりしています。自然な交流ができていることが微笑ましいです。聖火が消えたあとも意欲はまだ燃えています！



宇宙組の聖火は2週間
燃え続けました！



3学年とも延期日になってしまいましたが、どの学年も心地よい天候に恵まれた運動会でした。

